

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年5月1日

事業所名 八尾市立障害者総合福祉センター

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	78%	11%	11%	フロアを分けて対応している。 スペースがもう少し広ければもっとのびのびできる。	人数ではなく、特性に合わせて過ごすスペースを変えている。定員に合わせてスペースは適切だった。環境工夫をしている。 フロア環境を話し合い、より過ごしやすいうように配置等変えていく。スペース、動線を再度検討していく。
	2	職員の配置数は適切である	78%	22%	0%	配置基準に基づいた配置数になっている。児童の人数に沿って適正な人数を配置している。	配置基準は満たしているため、休憩交代の方法など工夫していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	78%	11%	11%	フロアは段差がなく、車いすでもスムーズに安全に移動ができる。	館内はバリアフリー。畳のある部屋を保育室にしたため木枠があった。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	67%	33%	0%		フロア主任と職員との面談を実施した。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	78%	22%	0%	保護者等向け評価表以外のアンケートは実施していないが、個別支援計画面談時に聞き取りをしている。	保護者とのやり取りは日頃より電話、面談、送迎時などに実施している。保護者との関係を深め、コミュニケーションの取りやすい環境を作っていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	89%	11%	0%		ホームページ上に載せている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	89%	11%	0%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	67%	22%	11%	発達障がいについての研修あり。リモート参加で行った。	職員で自主的にワークショップを行った。来年度も継続予定。サポーターズカレッジなどオンライン研修もしている。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	半年に1回、アセスメントを行っている。保護者との面談、職員会議での意見交換を経て個別支援計画を作成。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	0%	アセスメントを行う職員すべてが共通したツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	レクリエーションノートを作成し、やりたいことや意見があれば書き込み、共有することとしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	季節に合わせた行事やレクリエーションを常に取り入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	89%	11%	0%		ミーティングを行い、週案、レク案を決め、それに沿って個々に気を付けることを伝えている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	個別活動、集団活動とそれぞれの発達課題を見極めたうえで計画している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	89%	11%	0%	13時よりミーティングを行い、利用児についての把握、支援の注意点等の情報を共有する。	出退勤の時間の関係で13時にしか打ち合わせができないが、必ず実施している。後での引継ぎも徹底している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	22%	67%	11%	当日は送迎などで職員が揃わないため、当日に振り返りを行うことは難しいが、翌日のミーティングで共有している。	個々に気になったことは、児童発達支援管理責任者より伝えて改善に努めている。またよかった点を伝え、職員の質向上に努めている。支援終了後も振り返りを行う時間を確保できるようにしていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	必ずその日のうちに記録をつけている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	89%	11%	0%		ガイドラインや保育指針等に基づき支援計画を作成し、職員へ個々の支援方法を伝えている。	

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	0%		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	78%	22%	0%	直接主治医とのやり取りはないが、指示書等、保護者を通して医師よりいただいている。	医師からの指示書の期限が切れないようチェックしていく。指示書に基づき、看護職と保護者、保育士、機能訓練士の他職種で体制を整えている。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	78%	22%	0%		通園施設と連絡をとり、気になることや支援方法を聞き取り、情報収集に努めている。その他、事業所との引継ぎや保護者からの伝達もある。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	89%	11%	0%	担当職員に情報を提供して引継ぎを行っている。	当センターでの移行は担当者に伝えている。他事業所は相談員などを介して伝えるようにしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	56%	44%	0%	数年前まで研修があったが、コロナ流行により、いちよう学園での研修が中止になっている。	外部での研修参加が難しいため、内部研修を行い、質を高めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0%	71%	29%	コロナの影響により、数々の交流が止まっている。	天気の良い日に公園散歩に行った際にふれあいはあるが、活動としてはできていない。コロナの状況をみて、少しずつ、交流の機会を検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	33%	44%	22%		児童発達支援管理責任者が参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	89%	11%	0%	連絡帳にて情報交換、共有を行う。また、気になることは電話して、確認した上で共通理解をはかっている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	44%	44%	11%	フォローが必要な家庭については、アドバイスをしたり、相談のある家庭にも支援・対応をしている。	保護者に合わせたフォローを行っている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	89%	11%	0%		契約時に説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	11%	56%	33%	以前、保護者会の日程を設定したが、都合が合わず参加が難しい方が多かった。その後、新型コロナウイルス感染症対策を厳しく行っており、開催が難しい状況。	日程を増やして開催できるか検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	89%	11%	0%	学期ごとに、きずな新聞を発刊している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	連絡帳でやり取りしている。細かいところや重要な事柄については電話をするなど配慮し、意思疎通、確認を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	44%	22%	33%	感染対策を十分に持って開催しているが、同時に参加できる人数制限、時間制限等がある。	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	78%	11%	11%	防犯マニュアルは策定できていない。感染症対応マニュアルはある。	マニュアルを常時設置している。再度伝えていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	22%	44%	33%		火事、地震などを想定し訓練する。他職種との連携もとっていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	67%	22%	11%	ミーティング時に行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	0%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	0%	加工食品など混入が明確に分かりにくいものについても、常に確認を行っている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	89%	11%	0%	共通のシートがある。記入後、各部署にも配布し共有している。	